

県立学校生通学時における「新しい生活様式」導入推進事業
に係るアンケート結果について

- 1 調査目的 本事業により県内４区間において、臨時通学バスを運行した効果を検証するため、利用生徒・保護者、関係学校、ＪＲ四国にアンケートを実施。
- 2 調査期間 令和２年９月１日（火）から９月１４日（月）
- 3 利用生徒数 １２７人（中央地区５９人，南部地区２９人，西部地区３９人）
- 4 回答状況 回答生徒数１２１人（中央地区５４人，南部地区２８人，西部地区３９人）
回答保護者数１２１人（ ” ）

5 アンケート結果概要

(1) 生徒

ア 臨時通学バスにより、通学がより安全になったと思うか。

- ①大変思う 73% ②まあ思う 25% ③あまり思わない 2% ④全く思わない 0%

イ 感染症対策の意識（新しい生活様式の定着）は高まったか。

- ①大変思う 32% ②まあ思う 50% ③あまり思わない 14% ④全く思わない 4%

ウ 今後も臨時通学バスを利用したいと思うか。

- ①大変思う 81% ②まあ思う 17% ③あまり思わない 2% ④全く思わない 0%

(2) 保護者

ア 臨時通学バスにより、通学がより安全になったと思うか。

- ①大変思う 69% ②まあ思う 27% ③あまり思わない 3% ④全く思わない 1%

イ 感染症対策の意識（新しい生活様式の定着）は高まったか。

- ①大変思う 31% ②まあ思う 50% ③あまり思わない 17% ④全く思わない 2%

ウ 今後も臨時通学バスを利用させたいと思うか。

- ①大変思う 82% ②まあ思う 15% ③あまり思わない 2% ④全く思わない 1%

(3) 学校 (城南高校, 富岡東中・高校, 池田高校)

ア 臨時通学バスの効果について

- ・臨時通学バスが運行されることで、バス利用者の安全確保に加え、混雑の緩和によりJ R利用生徒の感染リスクの軽減、学校の感染予防対策の啓発等に効果がある。

イ 今後の臨時通学バスの必要性について

- ・新型コロナウイルス感染が続いている状況であり、引き続き継続を希望する。
- ・学校（生徒・教職員）における「新しい生活様式」の定着が進みつつあるが、生徒の就職・進学に支障が出ることをないように年度末までの運行を希望する。

(4) JR四国

- ・JRの混雑緩和に一定の効果があり、通学生の安全・安心の確保に有効である。
- ・JRとしても引き続きガイドラインに基づく3密回避対策、消毒等の徹底、乗客への「新しい生活様式」の広報に努めて参りたい。